

- 他のチームの発表を聞いて

最後の授業で他の班の人たちの発表を聞いて、参考になったところは、2つあります。一つ目は、資料やグラフなどを積極的に使うことです。プレゼンの画面にはプレゼンの文章をなるべく少なくして、資料やグラフを活用することで、発表を聞いている人達が発表者の伝えたいことをいち早く理解することができると思いました。また、文章が長々と書いてあると、聞いている人たちはそれを読むのに夢中になってしまい、発表者の声に耳を傾けなくなってしまうと思います。私たちの班は発表しないということもあり、聞き手の人たちの立場に立ってプレゼンを作ることが疎かになってしまったと思っています。二つ目は、聞き手の興味を引くようなプレゼンをすることです。2班が他の班と比べて2倍以上の票をもらって勝つことができたのは、地方都市における交通の問題について班でまとめた意見をもとに発表するだけでなく、その意見を人気ゲーム「マリオカート」と組み合わせたからだと思います。聞き手は、「マリオカートと交通の問題がどのようにマッチするのか」と興味を湧き、他の班よりプレゼンを聞くことに意欲的な態度を持つようになったと思います。これから先もグループでプレゼンを作るという機会がたくさんあると思います。その時は今回の授業で参考になったことを活かせるよう頑張りたいと思いました。

- 地方都市における交通の問題を解決するための自分の意見

自分たちのチームでは、問題の原因として、「自転車と自動車が共存できていない」ということに着目しました。この問題を考えるに至った理由は、私たちの班では移動手段として自転車をよく利用する人が多く、自転車で車道を走っている際に、減速しない・遠ざからない自動車が多く、日頃から危険だと思っているという声があったからです。この問題の現状として、自転車事故の約8割が自動車との事故で、不注意などで起こる出会い頭による衝突が多いことがわかりました。不注意による事故というのは、相手のことを考えないような危険な運転のことだと思っています。なので、理想としては、自動車、自転車が互いに尊重し合い、交通ルールを遵守する、また出会い頭事故は不注意によるものだけでなく建物や障害物による視界不良なども原因の一つだと思うので、インフラの設備を整えることです。自転車と自動車が共存できない原因は三つあると考えます。一つ目は、自動車利用者による違法駐車です。自転車専用レーンに車が停車・駐車することで、自転車は車道の追い越し車線へ出ざるを得なくなり、交通事故が急増します。また、駐車中の車が急にドアを開くことによって起こる接触事故の危険性もあります。二つ目は自転車の通る道が狭いという点です。自転車専用レーンが狭い、または無いことで車と接触する危険性があります。また、交通量が多かったり設備が不十分な道路だったりすると、車道走行が危険と感じる利用者が多いため、自転車は車道を走行することが原則にも関わらず、歩道を

走る利用者が多くいると考えました。三つ目は、安全不確認脇見運転などによる不注意です。交通事故原因の9割が安全運転意識の欠如であり、これらは運転者の安全意識次第で防げた事故です。意識欠如の主な例として、ながら運転や運転技術の過信などが挙げられます。これらのことは自動車だけでなく、自転車を利用する人も肝に免じる必要があると考えました。これらのことから、私たちは、「自転車の事故をなくすにはどうすれば良いか」という課題を設定し、課題解決について考えました。一つ目は違法駐車を取り締まりです。違法駐車による自転車と車のドアの接触事故、違法駐車を追い越す際の事故を防ぐのはもちろん、自動車のスピード超過やながらスマホなどの危険運転の低下にも繋がるため、自転車利用者は安全に走行できると思います。二つ目は標識などをうまく活用することです。歩道や車道が狭い場合、広い道路へ誘導する。ルールを守るよう注意を促すような標識を設置することで、観光客などのその地域の地形をあまり知らない人でも安全に走行できると考えています。期待される効果としては、どちらも事故の減少が期待できる。また、自転車を安心して利用できる環境が整うことで、都市全体の安全性向上に繋がります。課題として一方で標識などの道路整備にはコストや時間がかかり、ルールを知っていても全員が守るわけではない、コスト、設備にかけた時間に見合う効果が実際に起こるか分からないという点です。最後に私は自動車を利用する際、相手の尊重や交通ルールを守り走行したいと思っています。